

令和4年第1回東大和市議会建設環境委員会記録

令和4年3月8日（火曜日）

出席委員（7名）

委員長	木下富雄君	副委員長	荒幡伸一君
委員	二宮由子君	委員	尾崎利一君
委員	森田博之君	委員	関田正民君
委員	大川元君		

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

議会事務局職員（4名）

事務局長	鈴木尚君	事務局次長	並木俊則君
議事係長	吉岡繁樹君	主任	関口百合子君

出席説明員（3名）

副市長	小島昇公君	都市建設部長	田辺康弘君
土木課長	寺島由紀夫君		

会議に付した案件

- (1) 第29号議案 市道路線の変更について
- (2) 所管事務調査
東大和の特産品による産業の活性化について

午前 9時29分 開議

○委員長（木下富雄君） ただいまから令和4年第1回東大和市議会建設環境委員会を開会いたします。

新型コロナウイルス感染防止のため、3密を避け、広い空間を取る必要がございますことから、本日もこの全員協議会室において御協議いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（木下富雄君） 初めに、第29号議案 市道路線の変更について、本案を議題に供します。

お諮りいたします。

本案につきましては、審査に先立ちこれより現地視察を行いたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 御異議ないものと認め、さよう決します。

〔 現地視察 〕

午前 9時30分 出発

午前 9時58分 帰庁・再開

○委員長（木下富雄君） 現地視察により路線の状況を確認いたしましたので、これより審査を行います。

本案につきましては、既に本会議において提案理由の説明が終了しておりますので、直ちに質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 質疑を終了して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 御異議ないものと認め、質疑を終了いたします。

これより自由討議を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 自由討議を終了して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 御異議ないものと認め、自由討議を終了いたします。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 討論を終了して御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 御異議ないものと認め、討論を終了いたします。

採決いたします。

第29号議案 市道路線の変更について、本案を原案どおり可決とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 御異議ないものと認め、よって本案を原案どおり可決と決します。

ここで、説明員退室のため暫時休憩いたします。

午前10時 休憩

午前10時 開議

○委員長（木下富雄君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○委員長（木下富雄君） 所管事務調査、東大和の特産品による産業の活性化について、本件を議題に供します。本日は、所沢市から提供された特産品の資料について、委員間で自由討議を行いたいと思います。

それでは、御意見等ございましたら、御発言のほうをよろしくお願いいたします。

○委員（荒幡伸一君） 資料の提供、ありがとうございました。拝見させていただきました。委員長の思いというのが非常に伝わってきたというのが第一印象でございました。また、実際、話を聞きに行けたらよかったなというのが第一印象でございます。

その中で、所沢市として、非常に具体的に絞り込んでいるなというのが実感でございました。特に対象商品に関しても、持ち帰りが可能で、以下のいずれかに該当するものということで、地場農産物を活用した商品だとか、地域資源や魅力を発信することのできる商品だとか、伝統的な文化・風習を活かした商品ということで、地域資源に関しても、農林水産物だとか生産技術、また観光資源ということで、これも細かく、非常に分かりやすく取り上げてるなというのが実感です。

そして、評価基準についても細かく分けてあって、地域性、また所沢らしさだとか、独自性・創造性、信頼性・安全性、品質・技術力と、また市場性・将来性ということで、細かく項目や内容が分かれていて、分かりやすいなというのが実感でございます。

ただ、当市に当てはめてどうかというところはあるんですけども、この認定された付加価値というのをどうやってつけていくんだろうかというところを感じました。所沢市では認定の公表ということで、市長がこのブランド——特産品として認定をした特産品、及びその申請者について公表して、積極的に情報発信をするというようなことですか、認定の表示をしてくれるというようなことで書いてありました。

それを思ったときに、先日テレビでやっていた人生の楽園で、世界のマゼランが市内のビーツを使ってボルシチを作ったというようなことで載ってまして、そういったのも第5次産業として考えられるのかなというのと、あと清川さんで、毎年こここのところ、東大和市産のそばを作ってますけども、そういったようなものも考えられるのかなというふうに思いました。

ただ、まずはそういった特産品というのをアピールするということを考えると、所沢は所沢としてのこのブランドというのがある程度あるのかなというふうに思いますけども、東大和市としてのこのブランド力というのを上げていかないと、なかなかここまでやるのは厳しいのかなというふうに思いました。

以上でございます。

○委員長（木下富雄君） ありがとうございました。

ほかにございませんか。

○委員（森田博之君） 所沢ブランドということで資料を読まさせていただいて、非常に参考になるなと思いつつながら、率直な感想なんですが、所沢ブランド特産品創出支援事業のこのところの対象商品で、所沢の地場農産物を活用した商品ということで、じゃ東大和市に当てはめてみると、多摩湖梨だったりとか、狭山茶だったりとか、そういったことになるかと思うんですけど、実際に産業として表に出していくときに、その量がどれぐらいあるのかなというところがちょっと気になりました。どちらかといいますと地域資源ということで、東大和は、

多摩湖、東京狭山茶、あとは野火止用水というのが地域資源で実はあるということも改めて知ったわけですが、そういった部分にもまた焦点を当てて、事業者さんと組んでいくというのがよろしいんじゃないかなというふうに率直な感じで思いました。

今までブランド事業というのは東大和ではちょっとやってない、やってないというわけではないんですけども、積極的に取り組んできてないんじゃないのかなっていうのを非常に感じたので、こういう形を何か事業としてやることによって、地元の事業者さんと、改めて市と、行政とで組んでやるということは、一つの東大和のブランド力になっていくのかなと。ちょっと取り組んで——私個人としては取り組んでみたら面白いんじゃないかなというか、やっていかなきゃ反対にいけないんじゃないかなというのを感しました。

以上です。

○委員長（木下富雄君） ありがとうございます。本来であれば、所沢市に視察に行って、生の声を聞いたりとかしたかったところなんですけど、なかなか事情が許さない状況でありましたところから、資料のほうを取り寄せ、委員の皆様に見ていただきまして、本日の自由討論ということで、なかなか自由討論というふうにしていくのも難しいと思いますが、ただいま2名の委員の皆様から、資料を読み込んだもの、プラス東大和市を鑑みた中の意見を頂きましたが、ほかの委員の皆様も何か率直な感想等がございましたら、よろしく願いいたします。

○委員（尾崎利一君） ちょっとコロナ禍で所沢に行って直接話が聞けないということで、資料を頂いたわけですが、例えばこのブランド認定、所沢はどうも市が認定しているようですけども、市がやっているとは限らないですね。商工会がやってたりとか、そういう、商工会もしくはちょっと自治体ではなくて民間が認定しているとかっていうところもあったりすると思うんですね。

ですから、やり方いろいろあるでしょうし、所沢にやっぱりせつかくこういう資料を頂いたので、条件が許すようになったら、やはりこれを基にして、所沢に伺って、こういう事業を始めた経緯とか、それからその他の総合的なこういう地域経済活性化策とか、全体の中でやっぱりこれも位置づけられてると思うので、そういうことも含めて、せつかくこういう資料を頂いたので一度ぜひ伺って、近くでもありますし、お話を直接聞けるような機会をぜひつくっていただければなというふうに思います。

以上です。

○委員長（木下富雄君） ありがとうございます。

○委員（二宮由子君） 所沢の資料、入手していただきまして、ありがとうございます。

先ほど尾崎委員もおっしゃったように、なかなかコロナ禍ですので、現地に行って直接お話を伺えないという状況の中、資料を拝見させていただきました。この資料とはちょっと別なんですけど、市役所の1階に喜多方の物産品というパンフレットも実はありまして、所沢市と喜多方市の違いは、喜多方のほうは多分、喜多方観光物産協会というのが認定をされているんだと思うんですけども、所沢の場合は所沢市が認定されているという、うち東大和市としても、物産協会ですとか観光協会がない状況なので、一番早道というか、一番方向性としてこれから動きやすいのは、市が認定する方向なのかなというふうに思いますけれども、やはりこのコロナが少し収まった状況で、所沢にちょっと伺って、直接お話を聞きたいなというふうに思いました。

例えばこの委員の方11名はどういった選定されるのか、いろいろちょっと細かいことまで伺いたいと思いますので、ぜひコロナが収まったら行きたいのと、あと、できれば姉妹都市である喜多方市へも視察できればいいのかなというふうに感しました。

以上です。

○委員長（木下富雄君） ありがとうございます。

○委員（大川 元君） 資料のほう、取り寄せていただきまして、ありがとうございます。

一つ思ったのが、所沢でも作っていて、例えば東大和でも作っている特産品、例えば先ほど森田委員もおっしゃられた多摩湖梨、例えば梨ジュースと一緒に作るとかという、何かこうコラボレーションをして、向こうの資料にも載せてもらって、こっちでも資料を作るとしたら、こっちの資料にも所沢の特産を載せるというふうにして、自治体間でコラボレーションすれば、何か相乗効果みたいなのが生まれるんじゃないかなと思いましたんで、東大和で資料を作るのであれば、そういった検討も必要かなと思ったんで、よろしく願います。

以上です。

○委員長（木下富雄君） ありがとうございます。

1点ちょっと皆さんにはお渡ししてなくて、今私の手元にあるんですけども、さきの議会の中の一般質問の中で、ある議員の方から角川の話が出た中で、東大和のリーフレットがありましたよということが多分皆様聞いていらっしゃると思うんですが、東大和のロビーにもその逆に所沢さんのが置いてありまして、これを置くということで、うちのほうも産業振興課のほうで東大和の資料を置いたという経緯があるんですが、この資料の中にも所沢の商品のことが、例えばカフェの部分を入れたりとか、いろいろ載せてありまして、品物を絞った中、認定した中で、それをいかに活用してるかという具体例がそこにちょっと示されていて、カフェの中などでもいろいろメニューとして載せたりしているところがありますので、ちょっと皆さんにお目通しいただければと思って、今お渡しいたしました。

ただいま資料をお渡しした中で、皆様の御意見等を承った中で、まずこの特産品を選定するに当たっての方法と申しますか、どこを主体とした組織をつくっていくのか、また現地の生の声を聞いてみたいという声を頂きました。なかなか本日の資料だけで先に進めることができない中で、貴重な御意見を頂いたものだと思います。

またさらに、皆さんでいろいろなところの情報等を入れていただく、知見を広げていただきました結果、東大和としてじっくりくる、ジャストにはまる、そして東大和の商品を訴えられるような方法を模索していくのが今回の所管事務調査になるのではないかなと委員長的には考えておりますが、皆様のお考えも大体そのようなものと受け取らせていただいたということでよろしいでしょうか。

本日は、資料においてこれ以上の自由討論をするということもなかなか難しいとは思いますが、状況が許すようであれば、取りあえず所沢のほうに視察に行き、現地の生の声、資料からは読み取れないことを研究していきたいなと思っておりますが、本日はこの程度にとどめさせていただきたいと思うんですけども、これに御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（木下富雄君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

○委員長（木下富雄君） これをもちまして、令和4年第1回東大和市議会建設環境委員会を散会します。

午前10時15分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 木 下 富 雄